

教育は いま

第16号

研究テーマ

応用力をはぐくむ授業の創造
～各教科等における言語活動の充実を通して～
第1年次

仙台市立五橋中学校との共同研究

仙台市教育センター所長 吉田 利弘

社会の状況が大きく変化し複雑化する中、そこに生きるために、あふれる情報を分析しながら適切に活用することや自己の行為の妥当性について適切に判断すること、そして多様な人々とのコミュニケーションを適切に図ることなどが強く求められます。

学校教育においても、すべての学習活動を通して、未知の複雑な状況を分析しながら諸問題に適切に対応できる能力の育成を担っていかなければなりません。その一つの方法として、言語を媒体とした学習活動の充実による思考力、判断力、表現力等の育成が挙げられます。

本年度より共同研究校と連携しながら、効果的な言語活動の在り方について授業実践を通して探ってまいりました。まさに緒に就いたばかりの研究です。したがって、本報告書も研究の概要と今後の方向性を示したものとなっております。各学校におかれましては、言語活動の重要性を受け止め、この報告書を基に日々の実践の中でそれぞれに工夫した言語活動を探究していただければ幸いです。

仙台市教育センター

研究テーマ設定の背景

学校教育法の改正による「学力」についての規定

- 第30条第2項

中央教育審議会答申

- 学習指導要領改訂の基本的な考え方

新学習指導要領「第1章 総則」

- 「第1 教育課程編成の一般方針」の「1」
- 「第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の「2の(1)」

仙台市標準学力検査及び全国学力・学習状況調査の結果から

- 基礎的・基本的な知識の定着状況はおおむね良好
- 全国学力・学習状況調査では、主として「活用」に関する問題（B問題）に課題

仙台市の教育施策から《平成20年度の最重点事項》

- 健やかな心と体の育成
- 確かな学力の向上
- 自分づくり教育の推進

これからの「知識基盤社会」で求められる力

- 生きる力
- キーコンピテンシー

- 基礎的・基本的な知識及び技能の習得
- 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の育成
- 主体的に学習に取り組む態度の育成
- 言語活動の充実



研究テーマのとらえ

「応用力」とは……

「応用力」を、「基礎的・基本的な知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等」ととらえた。

「授業の創造」とは……

「応用力」は知的活動や、コミュニケーション、感性・情緒の基盤としての言語の役割を踏まえた各教科等における学習活動、すなわち基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習活動、これらの活用を図る学習活動、総合的な学習の時間を中心とした探究活動を通してはぐくまれるものである。言い換えれば、教師一人一人が一時間一時間の授業を大切にすることによって、児童生徒の「応用力」ははぐくまれていく。そこで、教師の実践的指導力の向上に結び付く実践的研究を指向し、日常の授業づくりに焦点を当てて研究を進めることとした。

「言語活動の充実」とは……

「言語活動の充実」は今回の学習指導要領改訂の中で各教科等を貫く重要な改善の視点の一つである。新学習指導要領では、思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点からそれらの基盤となる言語に関する能力の育成が重視され、「言語活動の充実」が示されている。

中教審教育課程部会の審議経過等も踏まえ、本研究では、国語科に限らずすべての教科等において、授業の本来のねらいである教科目標を達成するための手段・方策として「言語活動の充実」を図っていく。

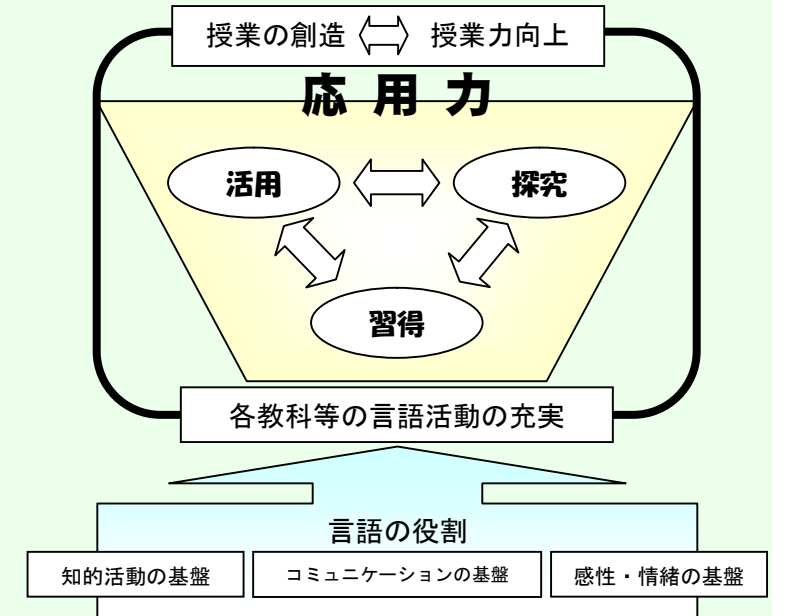


図1 研究テーマの目指すもの

1年目の研究の進め方

帰納的研究法

本研究の1年目は、共同研究の基盤づくりの期間ととらえ、各教科等における授業の検証及び改善を中心に研究を進めることにした。その際、「こうすれば最もよいだろう」という授業の内容や指導過程についての一つの結論を設定し、それを授業で実験的に検証していくという演繹的な研究法ではなく、日々の授業を検証し、そこから効果的な「言語活動」とはどのようなものかを探っていくという帰納的な研究法によることにした。

「言語活動」はこれまでの学習活動においても行われてきた。しかし、その多くは思考力・判断力・表現力等をはぐくむという観点から組み立てられたものではなかった。本研究では、日々の授業を「言語活動」という視点から検証し、応用力をはぐくむための手段・方策としての「言語活動」の充実を図ろうと考えた。

また、「応用力」についても、実践研究を積み重ねることによって、各教科等としてのとらえ方、そして、それに迫るための方法について明らかにしていくことができると考えた。

継続型の研究

本研究では、重点教科等において、教育センターの担当指導主事が特定の学年に継続的にかかわり、授業づくりに取り組むことにした。年間1、2回程度の授業研究を散発的に行うのではなく、継続して授業の検証・改善を行うことにより、日々の授業に役立つ実践研究とすることができると考えた。

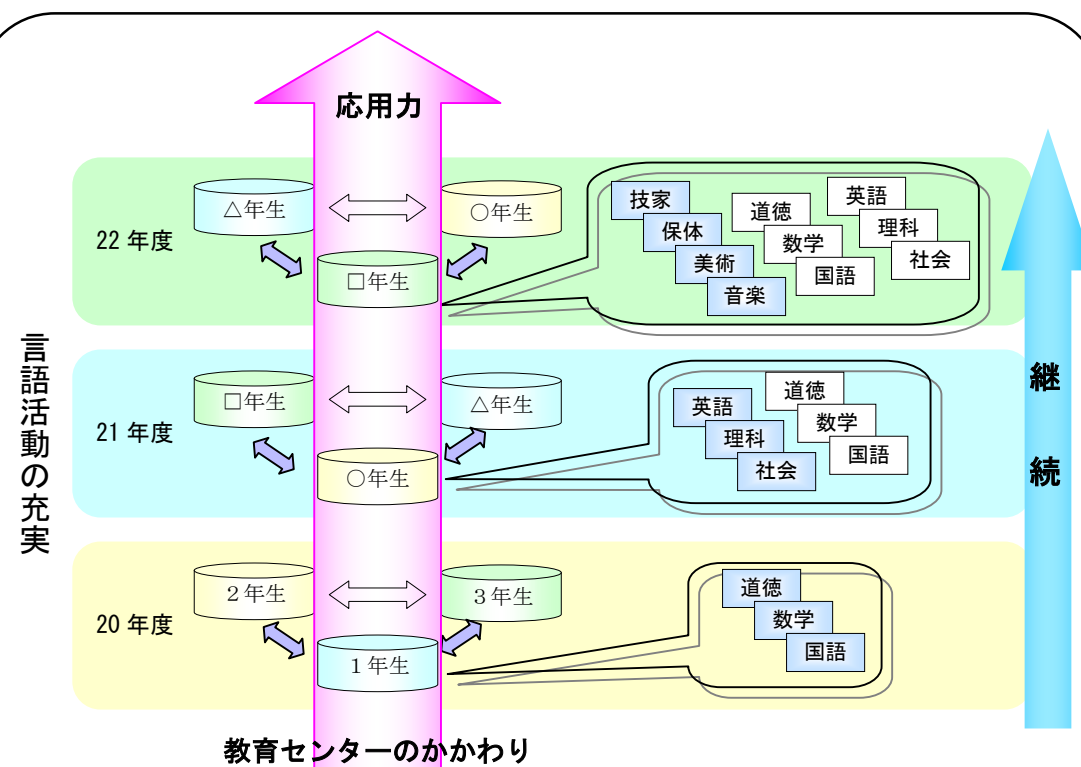


図2 五橋中学校との共同研究のイメージ

参考

今回の学習指導要領改訂に向けた審議の過程では、「国語力」「言葉」(平成18年2月の中教審初等中等教育分科会教育課程部会『審議経過報告』)、「言葉」「国語力」「言語力」(平成19年1月の同教育課程部会『第3期教育課程部会の審議の状況について』)、「言語力」(平成19年8月の言語力育成協力者会議『言語力の育成方策について(報告書案)』)等の用語が使われていたが、『教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ』(平成19年11月)から「言語活動の充実」に改められ、新学習指導要領の告示に至っている。

本年度の共同研究の概略

応用力

応用力をはぐくむために各教科等で重視した学習活動

思考 発信 交流 再考 発信

言語活動の充実を図る視点

国語

- ・ 課題に対して自分なりに考えること
- ・ 分かりやすく説明すること
- ・ 他者と考えを交流すること

数学

- ・ 課題に対して自分なりの考えをもったり深めたりすること
- ・ 自分の考えを分かりやすく伝えること
- ・ 他者の考えを聞き取ること

道徳

- ・ 自分なりの考えをもったり深めたりすること
- ・ 自分の考えを分かりやすく表現すること
- ・ 他者と考えを交流すること

言語活動の具体

国語

- ・ 理由を明らかにしながら意見を述べる
- ・ どのように考えたか（どうしてその結論に至ったか）を説明する
- ・ 一斉指導の中で、他者の意見に対する自分の意見を発表する

数学

- ・ 観察、実験、操作を通して、結果の予想や検証をする
- ・ 数学的な表現（言葉や数、式、図、グラフなど）を用いて伝える
- ・ 自分の考えと異なる点を比較しながら聞く

道徳

- ・ 資料から登場人物の気持ちや行為の動機などを考える
- ・ 自分の考えをまとめて人に分かりやすいように書いたり討論したりして表現する
- ・ 互いの考えを伝え合い、自らを見つめ考えを深める

継続してできること

言語活動の充実を図った実践例① 道徳

主題名：「友情とは」 内容項目 2-(3) 友情 自作資料「友達とは・・・」
ねらい： 友情には信頼関係が大切であることに気づき、よりよい友情を築こうとする心情を育てる

ポイント

表現し考えを深める指導の工夫として

ウェビングの活用

書く活動（手紙）

言語情報としての資料から登場人物の気持ちや行為の動機などを考える。

書く活動を通して自分自身のものの見方や考え方・感じ方などを整理し、言語化する。

他者の考えに触れることで自分の考えとの同じ面や違う面などを認識する。

自己や他者と対話しながら再び言語化することで振り返ったり、自らの価値観を見つめ直したりする。

発表を聞くことで、互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

段階	学習活動・主な発問	指導上の留意点
導入	○ 「友達とは何だと思いますか。」	○ キーワードを板書する。
思考 発信 交流	○ 資料「友達とは・・・」を読む。	○ ウェビングの活用
	○ ヒロは最後に何を言おうとしたのかを考える。	○ 4～5人に発表させる。
	○ 手紙を書く。 「ユウはヒロに自分の気持ちを手紙で伝えることにしました。手紙を書いてみましょう。」	○ 自分の考えで書くよう伝える。
再考	○ 手紙を回収し、シャッフルして配布する。	○ 自分の手紙が届かないようにする。
	○ 手紙に対する返事を書く。 「届いた手紙を読んで、自分の考え、思いを返事に書きましょう。」	○ 机間指導しながら、発表させたい手紙を選んでおく。
発信	○ 手紙と返事を発表する。	
	○ 友達とは何かを考える。	○ 発表させ、キーワードを色違いで板書する。
終末	○ ワークシートの「友達とは□である」を書く。	○ 単語で入れてよいことを伝える。
	○ 記入したワークシートを掲げ、周りに見せ合う。	○ 紹介したい文を選んでおく。

ロールレタリングの手法の活用

ウェビングの活用
↓
思考を視覚的に整理

参考

自作資料「友達とは・・・」は
仙台市教育センターWebページの調査研究のページ参照

言語活動の充実を図った実践例② 国語

学習材：「少年の日の思い出」（東京書籍「新編新しい国語1」・小説）【第4時から】

段階	指示・発問	学習活動	留意点・評価
思考	授業で学んだことを生かして、「『少年の日の思い出』は、……。」という文を完成させなさい。	○ シートに自分の考えを記入する。	○ 文章中の言葉を根拠にさせる。
	○ それぞれの考えをグループ内で回覧させる。 ○ それぞれの班で見出しの中で全体に発表ものを決めさせる。	○ 4人のグループで自分の考えを回覧する。 ○ グループで話し合う。	○ 理由・根拠を明らかにしながら考えをまとめさせる。 ○ 意見の交流が進むようなポイントを示す。
発信	後半の「再考」する時間を確保するために、課題を精選する。	○ 各班の発表を聞く。	○ 意見の交流が進むようなポイントを示す。
	○ 代表生徒に発表させる。	○ 各班の発表を聞く。	○ 意見の交流が進むようなポイントを示す。
交流	今日の授業を振り返って、もう一度「『少年の日の思い出』は、……。」という文を完成させなさい。	○ 各班の発表を聞く。	○ 意見の交流が進むようなポイントを示す。
再考	今日の授業を振り返って、もう一度「『少年の日の思い出』は、……。」という文を完成させなさい。	○ 各班の発表を聞く。	○ 意見の交流が進むようなポイントを示す。

交流のポイント

- ・特に紹介したい考えはどれか。その理由は？
- ・それぞれの考えの共通点、相違点は？
- ・感想や気付いたこと。

自分の考えがどのように変わったか(変わらなかったか)、その理由も書かせる。

国語科で取り組んできた言語活動例

考える	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題に対して文章中の表現を根拠に自分の考えをまとめる。 ○ 他者の意見に対し質問を考えたり、自分の考えをまとめたりする。 ○ 交流の後、同じ課題にもう一度取り組み、考えを深めたり広げたりする。 ◆ 授業の中に、辞書を活用する場面を必ず取り入れる。
説明する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理由を明らかにしながら意見を述べる。 ○ 順序に気を付けながら説明する。 ○ 自分なりの工夫を加えながら、分かりやすく説明し直す。 ○ どのように考えたか(その結論に至った過程)を説明する。 ○ 話し合いで論点を絞り込んだ経過を説明する。 ○ 対話しながら自分の考えを整理し、説明する。
交流する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自他の意見の共通点、相違点を整理する。 ○ 話し合いの論点を決める。 ○ 他者の意見に対する自分の意見を発表する。 ◆ 他者の意見を聞き流さないよう、繰り返し指導する。



言語活動の充実を図った実践例③ 数学

単元名：「比例と反比例」【本時 14/16時間】

段階	学習活動、課題・発問等	指導上の留意点
思考	<p><課題></p> <p>紙100gを燃やすと、CO₂が160g排出される。また紙100gをリサイクルするとCO₂が40g排出される。排出されるCO₂の量の違いを調べる。</p>	<p>場面に応じた適切な課題解決の方法を考えさせる発問を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 調べる方法を出させ、このような課題の場合どれを用いるのが適切かを考えさせる。 ○ 式や表、グラフの特徴をとらえさせ、それぞれのよさについて考えさせる。 ○ グラフの先を予想させ、どのように求めるかを考えさせる。 ○ 自分の考えと他の方法とを比較しながら、求めやすい方法を考えさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経験や既習事項を基に解決方法を考える。 ○ 解決の具体的な方法を発表する。 ○ 発表内容を基にそれぞれの方法のよさについて考えを伝え合う。 	
発信	<p><課題></p> <p>(1) グラフをかく。 (2) グラフのABの部分は何を表しているか。 (3) 紙400gの場合のCO₂量の差を求める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べる方法を出させ、このような課題の場合どれを用いるのが適切かを考えさせる。 ○ 式や表、グラフの特徴をとらえさせ、それぞれのよさについて考えさせる。 ○ グラフの先を予想させ、どのように求めるかを考えさせる。 ○ 自分の考えと他の方法とを比較しながら、求めやすい方法を考えさせる。
交流	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経験や既習事項を基に考え、表現する。 ○ 利用した表や式、グラフを用いて差の求め方を分かりやすく説明する。 	<p>自分だけの思考にとどまらず、相手に分かりやすく伝える工夫、機会を重視する。</p>
再考	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経験や既習事項を基に考え、表現する。 ○ 利用した表や式、グラフを用いて差の求め方を分かりやすく説明する。 	
発信	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経験や既習事項を基に考え、表現する。 ○ 利用した表や式、グラフを用いて差の求め方を分かりやすく説明する。 	<p>自分だけの思考にとどまらず、相手に分かりやすく伝える工夫、機会を重視する。</p>

数学科で取り組んできた言語活動例

考えをもつ・深める	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観察、実験、操作を通して、結果の予想や検証をする。 ○ 日常生活や社会と結び付けて、考察や処理をする。 ○ 他者の説明を聞き、自分の考えと比較する。 ○ 既習事項を基に、性質などを見いだしたり新しい課題を解決したりする。
伝える	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数学的な表現(言葉や数、式、図、表、グラフなど)を用いて伝える。 ○ 思考の過程や判断の根拠を明確にして伝える。 ○ 自分の考えや話し合いの結果を分かりやすくまとめてから伝える。
聞き取る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話の主旨をとらえながら聞く。 ○ 自分の考えと異なる点を比較しながら聞く。 ○ メモを取りながら聞く。



今年度の研究を振り返って

生徒の変容

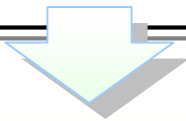
- 根拠を基に考えて、理由を付けて説明する生徒が多くなってきている。
- 基礎的な計算などについても、その原理を意識しながら取り組むようになってきている。
- 説明するための知識や思考が必要であることに気付き、より深く考え、それを筋道立てて組み立てようと工夫する様子がうかがえるようになってきている。
- 自他の意見を比べ、他の意見を自分の考えに生かそうとするようになってきている。
- グループによる話し合い活動の積極的導入により、自信をもって発表する生徒が多くなってきている。

研究推進

- 継続型の研究態勢を構築することができた。
- 研究テーマの目指すものについて共通理解を深めることができた。
- 重点教科等の授業実践を通して、言語活動の充実を図る視点について見通しをもつことができた。

次年度の課題

- 特定の教科を重点教科等として設定し、特定学年を核として行っている共同研究の成果を他の教科等や他学年へと広げていくこと。
- 各教科等に共通する「言語活動の充実を図る視点」について検討すること。
- 国語科と各教科等との連携を図っていくこと。
- 「説明する」「伝える」「聞き取る」「交流する」ための前提となる「考える」という活動をより充実させるための効果的な手だてを探ること。
- 簡素で効率的な応用力の評価の在り方について探ること。
- 日常の指導の中で言語環境を整えること。



五橋中学校に、東二番丁小学校・片平丁小学校の2校を加えた3校との共同研究（平成21,22年度）

小中の連携も図りながら、言語活動の充実を通して応用力をはぐくむための授業の在り方を探る

参考文献

- ◇ 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校および特別支援学校の学習指導要領等の改善について」 中央教育審議会答申 2008.1
- ◇ 「学校現場における実証的な教育研究の進め方と論文の書き方」 西田雄行 東洋館出版 1986.5
- ◇ 「各教科等における言語活動の充実～その方策と実践例」 高木展郎編集 教育開発研究所 2008.11

教育研究紀要「教育はいま」第16号

発行日 平成21年3月31日
発行者 仙台市教育センター所長 吉田 利弘
所在地 仙台市宮城野区鶴ヶ谷北1丁目19番1号
TEL 022-251-7441 (代表)
FAX 022-251-7486
Web <http://www.sendai-c.ed.jp>
代表E-mail info-web@sendai-c.ed.jp